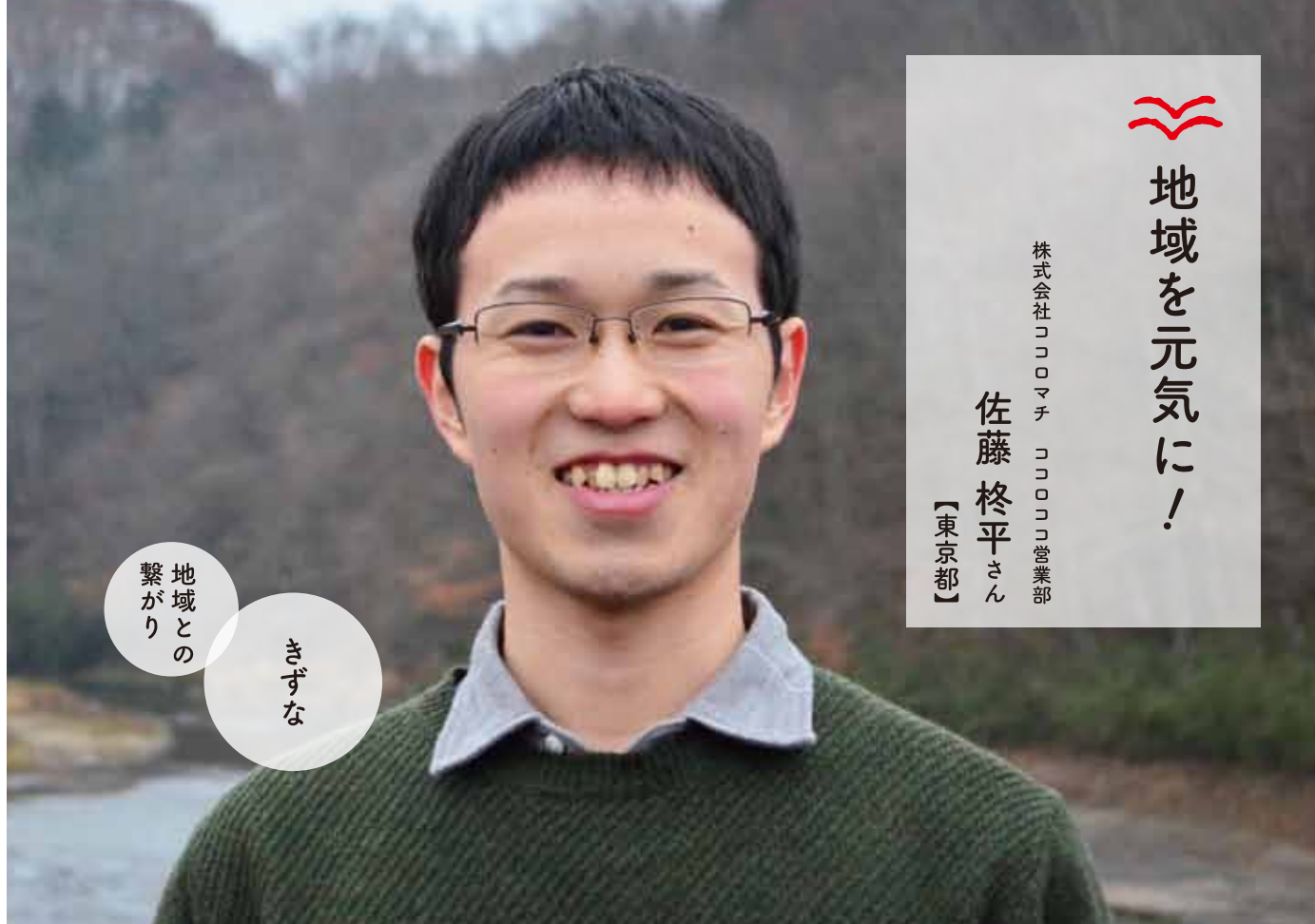


# 地域を元気に！

株式会社ココロマチ ココロココ営業部

佐藤 柁平さん

【東京都】



地域との  
繋がりが

きずな

## 震災以前のこと

岩手県一関市で生まれ、野球や駅伝、応援団などの活動をしながら高校まで地元で育ちました。明治大学に進学し、地域づくりや農山漁村政策などを学ぶと同時に、三木武夫元首相など、政財界に多くの人材を輩出してきた明大最古の「雄弁部」で活動していました。

## 震災から現在

震災のあった3月は大学1年生が終わろうとしている時で、岩手に帰省して、岩手県議会議員（現：「東北食べる通信」編集長）の高橋博之さんの事務所、インターンをしていました。事務作業をしていた時に地震が起き、非常に長く揺れが続きました。地震の状況は把握できないまま、事務所内に散乱したものの片付けをし、夜になって津波の被害のを知りました。

翌日、実家に戻って片付けを手伝いました。実家は内陸部なのですが、山を一つ越えた陸前高田が甚大な被害を受けていることを知り、支援活動に動くことができる地元の知人や友人とボランティア活動を始めました。活動の柱は、遠方から届く物資を個人宅やみなしの避難所へ運ぶ支援、県外から支援に来る人のアテンド、復興支援関連のネットワークづくりの3本。4月中頃まで地元で活動を続け、東京に戻ってからは、被災県出身の学生を中心にした地域支援の学生団体「ARCH」を立ち上げ、活動の幅を広げました。

その後も大学を1年間休学し、岩手を中心に、東北各地の復興事業やプロジェクトに参画したのですが、活動を続けて痛感したことは、平和な日常はとても尊いということと、大自然の前で人間や文明は本当に無力だということです。自分自身の価値観が大きく変わると同時に、世の中のあり方を考え直さないといけないという思いが強くなってきました。

2014年4月、まだ大学在学中でしたが、地域プロモーションを手掛ける株式会社ココロマチに入社しました。入社後も「ローカル」東北・岩手」「震災復興」「地域づくり」などをテーマに、今も個人的な活動が続いています。震災で失ったものはたくさんあるのですが、それ以上に得たものが東北にはあると思います。私のような若い世代も、新しい「ふるさと」をつくるために活動しています。

## 将来のビジョン

今は仕事と暮らしの拠点が東京になっていますが、将来的には拠点を岩手に移す予定です。そこで、新しい働き方やライフスタイルを実践していくことを楽しみにしています。

そして、岩手（特に地元の一関市）を面白い地域にして、ふるさとに戻ってきたり関わってくれたりする仲間を増やすために、ビジネス、政治行政の様々な面からアプローチを続けたいと思います。

## 佐藤柁平さん

岩手県一関市出身の佐藤柁平さん。東京の大学に進学した最初の春休みに震災が起こった。大学生活と並行して物資支援を始め、様々な支援活動をする中で、「復興」の次のフェーズに向け「ふるさとづくり」をテーマに打ち出し、活動を続けている。地域の本当の素晴らしさとは何か、をテーマに語っていた。



## 中高生へのメッセージ

「井の中の蛙になるべからず」という言葉を贈ります。広い世界を見るために、まずは自分がしっかりと動き、アンテナを高くすること。そのことがあなたにも、そして地元にも必要です。そういう感性を持って磨いてください。